

小柳社長は福岡県出身、1958年9月19日生まれの60歳、明治大学卒、82年入社、2007年執行役員、14年取締役常務執行役員14年取締役専務執行役員。

長崎県平戸市で野菜生産工場が稼働

モロフジファーム

包装資材メーカーのモロフジホールディングス(株)(筑紫野市、諸藤俊郎社長)傘下で、農業生産法人のモロフジファーム(株)(長崎県平戸市、同社長)は平戸市に水耕栽培の野菜生産工場を開設、10月1日から生産を開始した。

平戸市田平町内に約6000㎡の土地を賃借し、自然光を利用した水耕栽培ハウスを3棟建てた。リーフレタスや水菜を生産し、長崎県内のスーパーや福岡県内の外食産業向けに卸販売していく方針。初年度の目標売上高は3000万円。

同社では「包装資材とは異なる新事業。将来的に、当社グループ会社で輸出事業の諸藤通商を通して、生産した野菜を輸出していきたい」と話している。

農産物の海外輸出事業を計画

諸藤通商

包装資材メーカー・(株)モロフジ(筑紫野市、諸藤俊郎社長)のグループ会社で、輸出入事業を展開する諸藤通商(同市永岡、同社長)は、19年1月をめぐりに農産物の海外輸出事業開始を計画している。

グループ会社で農業生産法人のモロフジファーム(長崎県平戸市、同社長)が一昨年から栽培開始した黄色い果肉のジャガイモ「ながさき黄金(こがね)」を、富裕層が多い香港やアジア圏などへ輸出し、高級路線で販売していく方針。

同社では「国内で少量生産しているのを、その稀少性を売りに海外へ輸出し、販路拡大につなげたい」と話している。

札幌、沖縄にショールーム

小笠原

フリーユニットバスの設計、製造、施工の(株)小笠原(福岡市博多区博多駅南6丁目、小笠原正行社長)は1月、札幌営業所と沖縄営業所にショールーム

を開設する。ショールームの開設は7カ所目。

2拠点同時期に開設し、札幌営業所は1月17日、沖縄営業所は同月23日。同社が手掛けるオーダーメイドの「フリーユニットバス」を7〜8台展示する。通常商品に加え、高価格帯のユニットバスも数点展示するという。場所は、札幌ショールームが「北海道立近代美術館」そばの「北海道たばこ会館」1階。ショールームを含めた事務所面積は165㎡。沖縄営業所が国道303号沿いの「ブルーメイトビル」1階。ショールームを含めた事務所面積は92㎡。

同社では「ショールームの開設を進めながら受注の増加につなげていきたい」と話している。同社は1946年創業、81年設立。資本金2000万円。従業員数は約80人。

M&A奏功し2期連続増収増益

日創プロニティ

金属製品加工などを手がける日創プロニティ(株)(福岡市南区向野1丁目、石田徹社長)の2018年8月期決算は売上高が

再設定し、成長を加速させたい」と話している。

今期売上高は、金属加工事業で18年3月にグループ化した(株)ダイリツの業績が通期にわたって寄与することや太陽電池アレイ支持架台の大型複数案件の納入計画などから、前年同期比36・1%増の116億円、経常利益は同17・9%増の13億2000万円の増収増益を見込んでいる。

中間期売上高は32%増

ダイショー

大手調味料メーカー、(株)ダイショー(福岡市東区松田1丁目、阿部孝博社長)の18年9月中旬決算は、売上高が前年同期比3・2%増の98億7500万円、経常利益が同32・2%増の2億9000万円で2期連続の増収増益となった。

昨今の内食、節約志向の高まりを背景に、主力製品の「焼肉のたれ」類の販売が順調に伸びたほか、秋冬市場で需要が高まる鍋スープ類も、人気の辛味系ポテトスナックとコラボした「コイケヤ監修 カラムーチョ

比33・7%増の11億3000万円の増収増益となった。

金属加工事業で太陽電池アレイ支持架台の複数大型案件が順調に推移したことに加え、グループ化した綾目精機(広島県)の業績が通期で寄与したことが主な要因。当期純利益は32%増の8億2400万円。各セグメント別にみると金属加工事業は32・9%増の61億5100万円、ゴム加工事業は建築部材や工業用品などが堅調に推移したものの、修繕費などの増加により0・4%減の12億1700万円、建設事業はグループ間の情報連携を図り、材工一括受注で営業活動に取り組んだことから121・9%増の11億5300万円だった。

同社は「成長加速をテーマに今期から21年8月期までの中期経営戦略を設定し、グループの基盤強化に加えて、M&Aやライアンスによる事業領域の拡大を進めている。経営の機動性をさらに高めるため、3年間で上限50億円の戦略投資枠を

売上高が前年同期比2・8%増の92億8700万円、経常利益が同36・8%減の4億9400万円で増収減益だった。

売上面は主にフィルム製品、樹脂成型品および段ボール製品の増加が寄与。利益面では国際的な原油、古紙市況の大幅上昇により同社全製品の原料と燃料コストが急上昇したことを受け、販売価格修正の活動を推進したものの転嫁が一部にとどまり、生産性向上や固定費削減を推進したがコスト上昇分を吸収することができず減益となった。営業利益は同41・2%減の4億3000万円、上半期純利益は同44・8%減の3億1500万円となった。通期予想に変更はなく、売上高が前年比7・8%増の198億円、営業利益が同6・5%増の11億5000万円、経常利益が同8・0%増の13億5000万円、当期純利益が同4・8%増の9億5000万円を見込んでいる。

中間期売上高は28%増

大石産業

産業用包装資材製造の大石産業(株)(北九州市八幡東区桃園2丁目、大久保則夫社長)の2018年9月の中間期連結決算は、

仏壇販売の最大手・(株)はせがわ

わ(福岡市博多区上川端町、江崎徹社長)の9月中旬決算は、売上高が前年同期比0・6%増の99億3000万円、経常利益が11・4%減の4億9000万円で増収減益だった。

主力の仏壇・仏具事業では全店舗に共通した商品群「主力商品」の計画的販売や商品クリアランス実施などの取り組みを進めた。墓石事業ではペットと共に埋葬可能な霊園の新規受託販売や8物件目となる屋内霊園の受託販売を開始したことなどから売上高は前年度を上回った。収益面では新プロモーション「祈りの老舗 はせがわ」の展開や既存店舗のリニューアル、新規出店など積極的な販売促進施策の実施で販売費・一般管理費が増えたことから減益となった。

通期では売上高が3・0%増の200億円、経常利益が51・7%減の4億5000万円の増収減益を見込んでいる。

中国市場変化で減収減益

TOTO

衛生陶器製造のTOTO(北